

## 第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

### 報告書資料 一般 - 17

学校名・団体名	野田市立柳沢小学校
HPアドレス	<a href="http://schit.net/noda/esyanagisawa/">http://schit.net/noda/esyanagisawa/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	学級づくりはインプロで ～インプロ活動を通して～

#### 〈活動・研究の意義、目的〉

「インプロ」（即興表現）の授業を通して、児童の自己表現力とコミュニケーション能力の育成をはかり、よりよい「学級作り」をめざしていく。また、教職員も「インプロ」に参加することで、教師としての力量と人間力をつけていく。

また、プロの「インプロ劇団」の公演を実際に観ることで、児童にインプロ（即興表現）の大変さや楽しさ等を実感させ、一人一人のモチベーションを高くし、授業としての「インプロ」やふだんからの友だちとのコミュニケーション作りに生かしていく。

インプロ（即興表現）のねらいは、次の4点であると考えている。

- ①「誰もがここに居ていいんだな」と感じられる場が作れること。
- ②「答えが決まっていない」（間違いがない）ので、どんな表現も否定されずに受け入れられること。
- ③「失敗するのが当たり前」で、失敗を支えあい、楽しみながら自己表現にチャレンジできるようになっていくこと。
- ④目の前の相手と「一緒につくる」即興表現を楽しんでいく中で、自然に相手を認め、尊重していく態度が育まれる。

## 1. 「インプロ」の授業等について

### <時期>

各学年の発達段階や学級の実態にあわせた「プログラム」で1学級、年2回の授業をおこなった。(平成29年10月~平成30年2月)

- ① 10月16日 (3年生…2学級・4年生…2学級)
- ② 11月 8日 (5年生…2学級・6年生…2学級)
- ③ 1月24日 (1年生…2学級・2年生…2学級)
- ④ 2月19日 (2年生…2学級・5年生…2学級・6年生…2学級)
- ⑤ 2月23日 (1年生…2学級・3年生…2学級・4年生…2学級)
- ⑥ 2月10日 インプロ劇公演会(インプロ劇チーム「プラットフォーム」)

### <各学年でのねらいと内容>

低学年(1, 2年)…「今日の自分」を感じ、伝え合うこと。

中学年(3, 4年)…「今日の自分」+今、目の前にいる相手の「今日」を受けとめること。

高学年(5, 6年)…「今日の自分」+互いの表現、互いの存在を生かしあうこと。

各学年の発達段階や児童の実態に応じた「インプロのプログラム」による。(プログラムの内容については講師のすうさんと各担任との入念な打ち合わせによりその都度決定していく。)

- ※例 ①「ネームサークル」その日の呼ばれたい名前を五十音順で並ぶ。  
②「ノンバーバルサークル」一言もしゃべらず、全員で円をつくる。  
③「ゾンビ」みんなで協力してゾンビを倒す。

### <成果>

授業後に毎回、児童と教職員にアンケートを取ることで、児童一人一人のちょっとした気持ちや行動の変化が把握できるようになってきた。担任は、事後のアンケート結果や事後の講師のすうさんとの話し合い等で、そのちょっとした気持ちや行動の変化等を頭に入れ、以後の「学級づくり」に生かしていくことができた。

第1回目のアンケートの中では、「とてもおもしろかった」がほとんど全員であった。これは今まで経験したことのないことを体験したことが、児童にとってとても新鮮で、刺激的だったのではないかと考えられる。その結果、「またやりたい」という声もほとんど全員だった。特に、特別に支援を要する児童にとっては、興味をそそる内容で、今まで見せたことのない表情を出した場面もあり、一緒にやった担任もびっくりするほどだった。

第2回目は、児童はある程度リラックスしており、間違いを気にせず、安心してそのプログラムにチャレンジできている児童が多かった。また、「次はどんなことをするのだろうか。」という新しいプログラムに対しての興味関心も高く、笑顔と歓声にあふれたプログラムであった。事後のアンケートでも、「間違いを気にせず新しいことにチャレンジできた。」「友だちの違った面が見られてよかった。」「とても楽しく、またやりたい。」等の感想が多かった。授業は、講師(すうさん)により進められていたが、担任も一緒に参加することで、講師の間取り方、言葉の発し方、目線など学級担任としての「学び」も数多くあり、とても良かったのではないかと。1年に各学級2回の授業で、すぐに効果が出るかは難しい面もあるが、この「インプロ」を継続することで、長い目で観て、児童の「自己表現力」と「コミュニケーション力」の育成と教職員にとっての「よりよい学級作り」につながっていくものと考えている。

おそらく、本邦初公開となった「インプロ劇」については、今までの「芸術鑑賞会」とは全く違った。「正義の味方」という題名はあるが、その劇の内容については、あらかじめ各学級で考えた「テーマ」や「言葉」がその場で発表され、それに沿って劇が展開していくというものであった。まさに「即興」であった。物語の展開が「言葉」によりどんどん変わっていき、どんな展開になるか、どんな終了になるのか、だれも予想がつかないものであった。児童にとっては、自分たちの考えた「テーマ」「言葉」がその劇に生かされたことで、興味・関心が著しく高くなり、最後まで集中して鑑賞することができた。また、音楽、効果音等も即興で行うなどクオリティーの高さもすばらしかった。事後アンケートでも「即興だとは思えなかった。「もう1回観たい。」という感想が大変多く、児童へのインパクトがすごかったことがうかがえる。